



磐田の自然や生き物に触れ合い、親しみ、そして学ぶ

テレビゲームの普及や塾などで忙しい最近の子どもたちは、自然の中で虫捕りをしたり魚捕りをして遊ぶ機会が少なくなりました。しかし、今も昔も子どもたちは自然や昆虫などが大好きです。今回の特集では、子どもも大人も自然に触れ合い、親しみ、学ぶことができる場所を紹介します。

自然がいっぱい
竜洋昆虫自然観察公園

今昆虫公園が熱い!!

竜洋昆虫自然観察公園は、平成10年に「失われゆく自然を大事にし、子どもたちにもっと自然と触れ合ってほしい」との願いを込めて整備された施設です。園内の林にはカブトムシやクワガタ、草花や小川の周りにはチョウやトンボが飛び交い、池にはメダカや水生昆虫たちが暮らしています。

そんな昆虫公園が今注目を浴びています。SBSラジオ磐田情報局（毎週金曜日午前11時30分から放送）から生まれた

キャラクター「こんちゅうくん」と「ファールブルルずま」が子どもたちに大人気。2人の手書きの昆虫の解説が面白いと評判で、2人を目当てに来場する方も数多く見られるようになりました。



▲スタッフ手書きの解説
▼「こんちゅう館」には世界各地の昆虫を展示

園内を歩いてみよう

北ゾーン



北ゾーンは全体がビオトープとして整備され、野鳥観察舎、芝生広場があります。



ビオトープではささぶねを作って遊ぶこともできるよ

水中観察窓



中央ゾーンと北ゾーンをつなぐ地下道には水中観察窓があります。水中の藻に隠れたメダカやテナガエビ・フナ・オタマジャクシなどの様子がよく分かります。

ナマズ、カニ、ザリガニなども見ることができるよ。



中央ゾーン



中央ゾーンにはこんちゅう館、ビオトープ、花壇、学校ゾーンがあります。学校ゾーンには、小学校の教科書に出てくる草花や野菜などが植えられています。



たくさん昆虫がいるよ。運が良ければナナフシが見られるかも。

こんちゅう館

中央ゾーンにある「こんちゅう館」には、各地から集められた生きた昆虫や標本がいっぱい。研修室では、標本づくりや工作教室などさまざまなイベントが開催されています。

沖縄で昆虫採集をしました

こんちゅう館の展示を充実させるため、今年3月にこんちゅうクンとファールブルしずまが、沖縄

縄島の石垣島、西表島で昆虫採集をしました。館内には、そこで採集された貴重な昆虫なども多く展示されています。皆さんも、昆虫公園に実物を見に来てみませんか。2人から沖縄の昆虫採集の秘話が聞けるかもしれませんよ。



こんちゅうクン

(本名：北野伸雄)



昆虫公園の名物スタッフ。沖縄のビーチには目もくれず、ひたすら昆虫採集をする ※詳細は「きらりいわた人」(26ページ) 参照

アオミオカタニシ



読みにくい名前だが、「アオミ・オカ・タニシ」。日本一美しい?カタツムリと言われている

ヤエヤマサソリ



体長は30~35mm。とても小さく針が貧弱なため、一生懸命刺そうとしても人の皮膚には刺さらない

パプアキンイロクワガタ



通称パプキン。パプアニューギニアなどに生息。青・赤・黄・緑などカラーバリエーションが豊富でとてもきれい

ファールブルしずま

(本名：柳澤静麿)



昆虫公園のスタッフで、こんちゅうクンのまな弟子。趣味は全国に生息する約800種類のカミキリムシを集めること

貴重な動植物に出会える **桶ヶ谷沼**と**鶴ヶ池**

東名高速道路と磐田バイパスに挟まれた桶ヶ谷沼と鶴ヶ池は、豊かな自然に恵まれ地元の人たちや団体の人たちの保全活動によって、自然環境が昔の形のまま残されている貴重な場所です。

この磐田の宝である桶ヶ谷沼と鶴ヶ池の豊かな自然に触れ、親しみ、学んでみませんか。

桶ヶ谷沼



桶ヶ谷沼の周りには遊歩道が整備されています。

トンボは 70 種類、県内のトンボの 3 分の 2、国内の 3 分の 1 の種類が確認されています。マガモなどの野鳥、魚類、水生植物その他の生物も多く、まさに自然の宝庫です。桶ヶ谷沼とその周辺は、平成 3 年に県の自然環境保全地域に指定されています。

桶ヶ谷沼ビジターセンター



ビジターセンターは、桶ヶ谷沼の自然を身近に感じられるように、貴重な動植物をパネルや標本で紹介しています。また学習会や講演会などに利用できる視聴覚室もあります。

夏休みに学ぼう!!

ビジターセンターでは、子どもたちの自由研究や大人のための役立つイベントを開催します。詳しくは「情報BOX」(18 ページ)をご覧ください。



成熟したオスのベッコウトンボ
▲オスは成熟すると黒色に変色する。かつては東北地方南部から四国・九州まで分布していたが、現在確認できるのは、桶ヶ谷沼が日本の最東端となっている



ベッコウトンボ
▲市の昆虫でもあるベッコウトンボ。環境省のレッドリストで絶滅危惧種に指定されている。4月中旬頃から6月下旬頃まで見ることができる



カワセミ
▲水辺の枝先に止まって水中の魚などを狙う



キンラン



ヨフキトンボ
▲成熟するとオス、メスともに胸部や腹部に白い粉をまとうため「粉吹き」トンボと呼ばれている

▲沼の周囲の林で4~5月に咲く。環境省絶滅危惧種

桶ヶ谷沼周辺の動植物

まだまだあるよ
自然に触れ合える
すてきな所

大池



静岡産業大学の北にある大池。昨年12月初旬には、幸せを運ぶと言われているコウノトリが飛来。今後は市内外から人々が集い交流するスポットになるよう周辺を整備します。



▲夕日がきれいなスポットとしても注目されています

はまぼう公園



太田川河口にあるはまぼう公園の南側にはハマボウが群生しています。ご家族で鑑賞してみてもいかがでしょうか。



▲7月から8月にかけてきれいなハマボウを見ることができます

名前の由来

トンボの楽園として知られる桶ヶ谷沼は、徳川家康が武田軍の遠州侵攻の際に、先勝祈願に赤飯を炊き、桶を沼に納めたことから桶ヶ谷沼と命名されたといわれています。また武田軍が馬桶を洗ったことから桶ヶ谷沼と命名されたともいわれています。

渡り鳥が飛来することで知られる鶴ヶ池は、源頼朝が兄朝長^{ともなが}の供養のために、村人から十数羽の鶴を譲り受け、足に黄金の札を付けて放鳥したことから鶴ヶ池と呼ばれるようになったといわれています。

鶴ヶ池

周囲1.5キロメートルのこの池には、カモなどの水鳥が群遊し、水生植物も豊富です。岸边には遊歩道が巡っています。

12月の初旬頃には、コハクチョウが飛来し、94年から1年を除き毎年確認されています。



◀昨年は12月6日に渡来。渡り鳥はとてもデリケートなので、観察する際には鳥にストレスを与えないよう静かに観察しましょう

環境保全活動に取り組む 岩井里山の会

ベッコウトンボを守れ！

平成9年のアメリカザリガニの大発生で、沼の生態系が崩れ、ベッコウトンボは絶滅の危機を迎えました。岩井里山の会では以前から取り組んでいた水質の浄化活動やザリガニの捕獲とともに、この危機を乗り越えるため、平成20年から4ヶ所四方のいけすを沼に設置しました。

この結果、いけすから多くのベッコウトンボの羽化を確認できるようになりました。



NPO 法人岩井里山の会
加藤 佐登志 さん



▲外来種からトンボを守るいけす